

(様式第4号)

上田市総合計画審議会（第4回産業経済部会） 会議概要

1 審議会名	上田市総合計画審議会（第4回産業経済部会）
2 日時	令和2年1月17日 午後1時30分から午後4時00分まで
3 会場	勤労者福祉センター2階 第1会議室
4 出席者	宮下正明部会長、和田宏一副部会長、今井慎一郎委員、岡崎美都里委員、熊谷圭介委員、高野松宣委員、田島裕志委員、花岡欣二委員、宮坂文子委員、宮島真弓委員、柳島隆二委員、
5 市側出席者	大矢商工観光部長、工藤農林部長、宮島商工課長、長田地域雇用推進課長、青木観光課長、佐藤観光課付政策幹、小井戸農政課長、片山農産物マーケティング推進室長、高見澤森林整備課長、田中土地改良課長、大平移住交流推進課長、下島広報タイプ・プロモーション課タイプ・プロモーション担当係長、斎藤高齢者介護課高齢者支援担当係長、西川農政課農業振興係長、水野商工課商工振興担当係長、加々井政策企画課政策企画担当係長
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和2年2月7日

協議事項等

1 開 会（商工課長）
2 あいさつ（部会長）
3 議事 (1) 会議概要の確認について (事務局) 事前にお送りした第3回部会会議概要について、訂正等あれば、会議終了後お知らせいただきたい。 (2) 分野別意見聴取について (事務局) 分野別意見聴取の概要について説明 (まちなか) 「まちなかキャンパスうえだ」から現状・課題や市の施策に対する意見・提言等を発表 (委員) 何かをしたいと思っている学生が「まちなかキャンパスうえだ」を訪れるのか。同じような学生が訪れるのか。企業が学生を巻き込んで、イベントをしたいとき、どのような流れになるのか。 (まちなか) 月に1度程度定期的に使う団体もあるが、多種多様な学生が訪れる。内容も個人的な相談ことから、イベントをやりたいという学生もいる。イベントなどの場合は、学生だけで考えて開催する場合もあるし、違う団体に繋げる場合もある。 (委員) 学生からの発信は良いけど、企業側からの発信であると、マッチングが難しいか。 (まちなか) 我々も、すべての団体（大学のサークル等）を把握しておらず、そのことについて、ジレンマがある。 (委員) 「まちなかキャンパスうえだ」が持っているネットワークだけでなく、市のネットワークも活用すると良いのではないか。 (まちなか) コーディネーターだけでは、すべての学生の要望に応えるのが難しい状況であるが、市とも連携し、出来るだけ多くの学生と調整できるように努力したい。 (委員) 地域の企業、地域のまちづくり団体と学生が繋がりたいという声をお聞きするが、長野大学の「地域づくり総合センター」がまだ組織的に機能していない面があり、地域の要請に応えられない現状がある。重要な窓口である「まちなかキャンパスうえだ」もこれから運営面を検討する必要がある。 (事務局) 密接な連携をする必要があると考えている。市の関係部局と連携とれるように配慮する。今回の総合計画の中にも「まちなかキャンパスうえだとの連携」という言葉を入れている。 (組合) 「信州上小森林組合」から現状・課題や市の施策に対する意見・提言等を発表 (委員) 「信州上小森林組合」の理念的なもの、これからどのようにしていくのか。

(組 合) 生産性を向上するために、機器を導入し、効率化を図るなどとする一方で、地元産木材を地元で消費してもらえるように、組合としても支援していく。また、成熟した森林を伐採し、販売していくだけでなく、植樹をすることにもしっかりと対応していきたい。

(委 員) 松くい虫被害材の集荷システムの構築はどんなイメージか。

(組 合) 現在、松くい虫の被害材を搬出するには、費用も掛かるし、具体的な活用方法も決まっていないので、なかなか難しいが、行政とも連携し、良い方法を考えていきたい。

(委 員) 森林税を活用することは可能か。

(組 合) 部分的には活用できる方法もあるが、全体のシステムの構築となると厳しい。

(委 員) 林業と災害や防災などの保全の関係はどのように考えているか

(組 合) 森林は多面的な機能を有しており、災害防止、温暖化防止など大きく関わっているので、全体をみて、木材生産機能なども考えていきたい。

(3) 「後期まちづくり計画」素案について

(事務局) 新たな節として【3-1-3】を追加することについて説明

(委 員) 民有林の林齢別面積の問題は、全国的なのか、長野県や上田市だけの問題なのか

(事務局) 林齢が50年～70年ぐらいが多いのは、上田市だけでなく、県をはじめ、全国的な課題となっている。ただし、上田市は、県平均より若干林齢が高い状況。伐っても売れないことも課題。

(委 員) 竹害が塩田地域では課題となっている。現状と課題のところに入れてほしい。

(委 員) ペットボトルの問題が、環境問題としてあがっているが、木材を使った紙製品の容器の方が、まだ環境にやさしいと思うので、活用できないか。

(事務局) 木材の利用は様々な用途があることから、いろいろな施策を検討していく。

(事務局) 策定シート【3-1-1】、【3-1-2】の変更点について説明

(委 員) リンゴなど農産物について、最近の異常気象の影響があるのではないか。

(事務局) ワイン用ぶどうの生産地なども、地域が変わっており、影響はあると考える。変わっていく気象に対し、農産物の品種改良等も必要と考える。

(委 員) 「地産外消」という言葉、一般的なのか。

(事務局) 一般的という認識である。地元の消費拡大ということで、「地産地消」ということを言ってきたが、地元だけでは、限界があり、外にも売り出していきたいと考えている。

(事務局) 策定シート【3-2-1】、【3-2-2】、【3-3-1】の変更点について説明

(委 員) 修正点ではないが、「観光マスタープラン」は重要なことで、早めに策定していただきたい。

(事務局) 上田市の根幹をなすものと考えているので、早めに策定できるように努めていく。

(委 員) 別所線については、今回災害により鉄橋が落ちてしまい、いろいろな寄付活動が行われているが、上田市にゆかりのある人を呼んで、コンサートをするなど活用していくのはいかがか。

(事務局) サントミュージゼができたことによって、いろいろなコンサートなど、多岐にわたる事業ができ、また有名人を呼ぶことによって、お金はかかるが、市民の皆様が喜ぶこと、市外から人を呼び込むことができるようになってきている。ゆかりのある人を活用して、事業をやることは必要と考えている。

(事務局) 信州うえだ観光大使が24人いまして、別所線の復興については、ふるさと納税や民間による別所温泉応援プロジェクトなど、情報を発信することで、大使に対し自分たちが何かできないかという意見は聞いているので、そういう方々の力も借りながら進めていきたい。

(事務局) 策定シート【6-2-1】の変更点について説明

(委 員) 関係人口と交流人口の定義づけ等の説明はあるか。

(事務局) ※印をつけて、別途、用語集で説明する予定である。

(委 員) 別所線について、数年前に地元高校生が模型を作ったような記事が載っており、こういうことの方が、良いPRになると思った。また、ワインについても信州ワインも評価があがっており、レストラン等、他施設との連携とかにより相乗効果があがるような気がする。

(委 員) 上田のワインが横浜で出されたことがあり、市外での販路拡大は、上田市のPRにもつながる。

(委 員) 別所線の中吊り広告を利用して、寄付を募ることを長野大学の学生の発案で行われた。第二弾も考えており、ぜひ協力いただきたい。

(委員) 別所温泉や鹿教湯温泉などの空き店舗を活用したワーケーション、サテライトオフィスみたいなお話があったが、具体的に進んでいるのか。

(事務局) 働き方改革や東京オリンピックの対策として、ワーケーションやリゾートテレワーク等、市内の温泉地を活かしたものを考えており、地域おこし企業人の力を借りて、別所温泉の空き家を活用した事業を進めている。鹿教湯温泉についてもサテライトオフィスとして使っていく話がある。市としても温泉地の空き家、空き店舗を活用する事業者を支援している。

4 事務連絡

(事務局) 第3回全体会が2月18日(火)午後1時30分、会場、市役所本庁舎6階大会議室となる。

5 閉会(商工課長)